

令和8年2月5日 ~ 令和8年2月6日
宮城県東涌町 栗山稲と産

学校給食の生産地消及び有機農業推進策について
本視察では、現地で生産された農産物を学校給食に
活用する生産地消の取組と、それを支える有機農業
推進策について視察を行った。

視察先では、自然生態系農業の理念に基づき
化学肥料や農薬に依存しない農業を推進しており
その生産物の活用は食育の推進にも寄与している。

さらに、生産地消の推進は農業者の所得確保や
所得向上につながる。今後、生産者・教育機関の
連携に取組む特徴である
八戸市における取組

- ・ 地元農業者との連携強化による安定供給体制の構築
- ・ 有機農産物の導入拡大に向けた支援
- ・ 学校給食を活用した食育の充実
- ・ 流通体制の整備による供給の拡大

視察先 宮崎県小林市

視察日 令和5年2月6日 栗山裕之 確

視察内容 移住定住施策
目的

ツティブロモーションの取組について

小林市に対しては、地域資源を活用したツティブロモーションを展開し、交流人口の拡大や移住・定住の促進につなげている映像や広告等を活用した戦略的な情報発信により、地域の魅力を効果的に伝えたり特にターゲットを明確にした発信が成果を上げている。

また、地域の誇りや価値観を伝えることで共感を生み移住促進につなげている点が特徴である。

また、地域の誇りや価値観を伝えることで共感を生み移住促進につなげている点が特徴である。

ハナ市における対応策

ハナ茶等の地域資源のブランド力強化

ターゲットを明確にした情報発信

移住施策と連携した広報展開

民間との協働による魅力発信

視察先 宮崎県小林市

視察日 令和2年2月6日

栗山福成 殿

視察内容 移住定住施策

目的

小林市の人口減少対策の参考とするため

今日の視察では移住して下さるだけでなく

安心に暮らし続けられる施策が整っている点が
印象的であった。

来て住む人を呼びこきさせる

小林市では誰にも歓迎している

来て住む人のニーズを具体的に持つ施策を集めている。

子育て世帯、地元へ戻りたいなど

利便から生活まで手とめて支援している

移住に関する相談窓口がまとまっている

住居の・仕事・生活の点を一度に利便できる体制がある

初めての土地で不安がちな住居探し

情報の伝え方が工夫されている。

制度の説明だけでなく実際に住んでいる人の声や

暮らしの様子も伝わる発信がされている

住みか後のニーズがわかる。

移住1年後のマイホームがある

移住後の地理的なつながりを失った不安がある
孤立した生活になりがちである。

来住して終わりのない。

小森市の取り組みがある。

移住者から学ぶ人々のネットワーク

そこで設計する取り組みがあることが読取である。

八木市と他のも 価値を失った 生活者としての生活
生活者としての生活が重要である。